

ふるさと発見！（小・中学生向け） なかいずみ学府



善導寺の大クス（2024年撮影）
『磐田の文化財』磐田市文化財課より

〈児童・生徒数〉 令和7年5月1日現在

磐田中部小学校	593人
磐田西小学校	370人
磐田第一中学校	532人

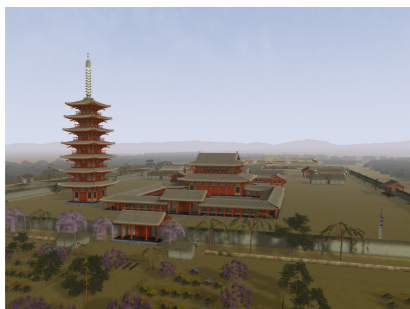
中泉は、室町時代以前は中市場村といわれていました。村の名前から、ここはむかしからモノが集まる場所だったことがわかります。磐田駅前にある県指定文化財「善導寺の大クス」は、室町時代からずっと、中泉のまちの移り変わりを見てきた木です。

この地域は、奈良時代から遠江のみやこ（遠江国府：現在の県庁所在地にあたる）として繁栄していました。「中泉」という地名は、南北朝時代の1334（建武元）年の文書に初めて出てきます。

1

国分寺や代官所もあった中泉

奈良時代から遠江国府として栄えた中泉の様子は、遠江国分寺跡や府八幡宮などから知ることができます。また、いくつかの古墳、御殿二之宮遺跡の出土品などから、このあたりにはもっと古い時代から人が住んでいたことがわかります。江戸時代初期には徳川家康の御殿がありました。その後、江戸時代には中泉代官所として、遠江・三河（現愛知県東部）地方の天領（幕府の直轄領）を支配する拠点となり、たくさんの役人が勤めていました。代官所は、明治になり、静岡藩の中泉奉行所となりました。中泉奉行だった前島密（1835-1919）は、生活に困った人のための支援施設「中泉救院」や「仮学校」を作りました。前島密は、日本郵便のしくみを築いた「日本近代郵便の父」として有名で、磐田駅南口に銅像があります。



遠江国分寺 CG復元

『磐田の文化財』磐田市文化財課より



府八幡宮楼門（県指定）

『磐田の文化財』磐田市文化財課より



地名の由来

ちゅうせい なかいずみごう か
中世の中泉郷に由来します。狩りに来た徳川家康が、いんりょうすい てき
飲料水が茶に適するとして以来、中泉となったとも伝えられています。『角川日本地名大辞典 22 静岡県』より

磐田中部小学校通学区

にのみや にのみやせんげん にのみやひがし おおいずみちよう
中泉一〜四丁目、二之宮、二之宮浅間、二之宮東、大泉町、
いまのうら とりのせ みつけ こうのだい
今之浦一〜三丁目、鳥之瀬、中泉の一部、見付の一部、国府台
の一部 とよしま にしかいづか
の一部、豊島の一部、西貝塚の一部

磐田西小学校通学区

きょうみづか ひとこと てんりゅう
中泉の一部、国府台の一部、京見塚、一言の一部、天竜の一部

なかいずみ地区の地図



「いわたふるさと散歩（中泉編）」磐田市文化財課より

2

小学校と中学校

磐田中部小学校と磐田西小学校の前身は、1873（明治6）年4月21日に開校した中泉学校の男子校と女子校です。何回か校舎を移転し、1930（昭和5）年に現在の磐田中部小学校の場所が男子校、磐田西小学校の場所が女子校になりました。1945（昭和20）年8月に二校とも現在のようないきべつづがつく地域別通学区での男女共学になり、1948（昭和23）年に現在の学校名になりました。

二校の始まりは、1869（明治2）年に中泉奉行の前島密が西願寺につくった「仮学校」です。明治になり、かつて江戸幕府の役人だった士族たちが家族と一緒に中泉に移住してきました。その子どもたちのために学校をつくったのです。中泉奉行所の役人で、仮学校で算数の教師をしていた塚原重応（1821-没年不詳）は、仮学校の後身の中泉学校で1892（明治25）年まで長い間校長を務めました。磐田中部小学校には彼の功績をたたえる記念碑があります。

磐田第一中学校は、戦後の新しい学校制度によって、1947（昭和22）年4月、当時の磐田町につくられた2つの中学校のうちのひとつです。（磐田第二中学校は1951（昭和26）年に校名変更し、城山中学校になりました。）

3

今の駅舎は何代目？

1889（明治22）年に中泉駅（現磐田駅）は開業しました。当時の新聞では「乗客や扱う荷物が東海道線の駅の中でいちばん多い」と書かれています。電子図書館には、明治から大正にかけての鉄道ガイドブック『鉄道作業局線路案内』『鉄道沿線遊覧地案内』があります。これらの本で中泉駅の項目を読んでみましょう。

大正時代に建てられた駅舎の模型が中央図書館の2階にあります。図書館の本で、写真も探してみましょう。1957（昭和32）年に建てられた駅舎は、2000（平成12）年に現在の駅舎に建て替えられ、南口ができました。

むかし、磐田駅からは「中泉軌道」（明治後期）と「光明電気鉄道」（昭和初期）という鉄道も発着していました。廃線跡を探してみませんか。



磐田市立中央図書館所蔵の
「中泉駅」模型写真（2025年撮影）

4

磐田駅前はこんなに変わった！

現在ジュビロードと呼ばれている磐田北口の通りは、むかしはアーケードがあってたくさんのお店が連なっていました。昭和30年代～50年代（1955～1975年ころ）にかけては映画館もありました。

平成初期から駅の南口・北口の整備事業が進み、2016（平成28）年3月に道も広くなり、大クスを中心とした駅前広場ができて、駅周辺の風景は一変しました。

図書館の本でむかしの写真や古い住宅地図を見ると、どんなお店があったのか当時の街並みがわかります。

くわしく調べるには

■むかしの中泉について

- ・「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ（中泉編）」★
- ・『磐田国分寺 もっと知りたくなる、学びたくなる「遠江国分寺読本」』
- ・『磐田ものがたり』・『府八幡宮ものがたり』

■学校の歴史や特色について

- ・『百年の歩み 磐田市立磐田中部小学校』・『磐田ことはじめ 第1編』
 - ・『磐田市史 通史編下』・『静岡県歴史人物事典』・『磐周教育の三十八年』
 - ・『磐周教育50周年記念誌 繋ぐ～次の50年へ～』
- 各学校のホームページも見てみましょう

■磐田駅や鉄道について

- ・『磐田の記録写真集』・『磐田・袋井・森今昔写真集』
- ・『光明電気鉄道 廃線跡を訪ねて』・『静岡鉄道軌道史』
- ・『磐田ものがたり』

■むかしの磐田駅前について

- ・『2000年のいわた』（写真集）・『磐田の記録写真集』
- ・『磐田駅前商店街 駅前再開発に関連して』
- ・『磐田・袋井・森今昔写真集』
- ・『住宅地図（磐田市）』図書館にある一番古い住宅地図は1957（昭和32）年のものです



図書館ホームページ

※★印は電子図書館から見るができます。